

図表1: 介護支援鍼灸師協会の目的

一般社団法人介護支援鍼灸師協会

鍼灸に加え介護の知識も身につけた  
介護支援鍼灸師を養成する

2018年の介護保険法改正により、機能訓練指導員として働ける国家資格に鍼灸師（はり師・きゅう師）が加わった。これを機に、一般社団法人介護支援鍼灸師協会が設立され、鍼灸治療に携わるだけでなく高齢者介護の基礎知識を身につけた「介護支援鍼灸師」の養成を開始した。介護業界での鍼灸師の役割とその可能性について同協会代表理事に話を聞いた。

鍼灸で痛みを緩和し  
機能訓練の効果を向上させる

自立支援に向け、多くの介護事業所が高齢者の機能訓練に取り組んでいる。しかし、高齢者の多くは腰や膝の痛みを持つほか、食欲不振や不眠などの不定愁訴も抱えており、積極的に訓練に取り組めていないのが実情だ。

「鍼灸マッサージ師として10年以上、訪問鍼灸やマッサージの仕事に携わるなか、鍼灸治療を必要とする高齢者が数多くいることを実感してきました。けれども、鍼灸師や鍼灸専門学校の生徒で介護業

界に入ってこようという人はほとんどいません。そこで、高齢者の介護予防と自立支援を目的に、在宅医療や介護業界で活躍できる鍼灸師を育成し、鍼灸業界の新たな分野を切り拓くことをめざしました」と、一般社団法人介護支援鍼灸師協会代表理事の高田光俊さんは設立趣旨を説明する。

同協会の調査では、不調を訴える高齢者の痛みを鍼灸治療で緩和し、訓練を実施することで心身に改善が見られた。これにより、介護職の負担軽減効果も表れているという。

「機能訓練指導員として働きつ

つ、高齢者の体調不良や痛みを察して必要な方に鍼灸治療を行い、自立を支える。介護業界で鍼灸師が活躍できる可能性は高いと感じています」と高田さん。必要とされる存在になるためには、高齢者特有の疾患とそれに対する鍼灸治療、介護の基礎的知識と技術の習得が不可欠だ。同協会は、高齢者鍼灸講座と介護職員実務者研修を通じ、「介護支援鍼灸師」として付加価値の高い介護スタッフを養成するという（図表1）。

高齢者鍼灸講座の内容は、鍼灸の知識のほか、バイタルサインや身体診察、救命救急の知識、関連



一般社団法人  
介護支援鍼灸師協会  
代表理事 高田光俊さん

【組織概要】

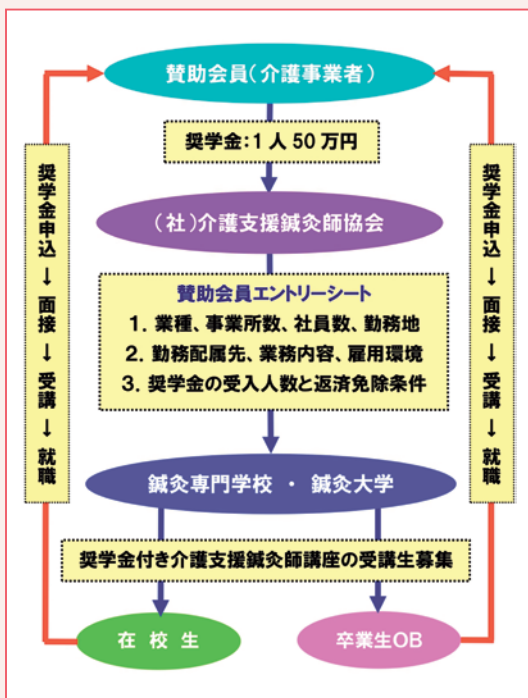
一般社団法人  
介護支援鍼灸師協会  
〒810-0003  
福岡市中央区春吉3-14-30  
白龍堂ビル  
TEL : 092-753-7731  
URL : <https://csaa.or.jp>



▲ 図表2:介護支援鍼灸師が果たす役割



▲ 図表3:介護業界に求められる鍼灸師



▲ 図表4:奨学金制度

**介護事業者とのマッチングを  
奨学金制度を通じて図る**

介護業界での介護支援鍼灸師の役割(図表2)は、入所施設ではADL改善鍼灸、通所施設では機能訓練指導、入所者の要介護度が比較的低いサービス付き高齢者向け

法規、高齢者とのコミュニケーション手法など。介護職員実務者研修は、株式会社日本医療企画の実務者研修Eラーニングを使用する。今年6月から、全国の鍼灸専門学校・鍼灸大学で講座を開講する予定だ。

高田さんは「実務者研修を終えた鍼灸師の採用は、介護事業者にとって新たな雇用ルートの確保になるでしょう。鍼灸師を活用し、介護予防や自立支援につなげてほしいですね」と夢を語る。

住宅では介護予防鍼灸の提供となる。このほか、鍼灸師資格を活用し、医療保険適用の訪問鍼灸事業も実施できる。「鍼灸師の雇用により、人手不足を解消し、他施設との差別化も図れ、経営課題の改善にもつながることが期待できます。当協会が鍼灸専門学校・鍼灸大学と介護事業者をつなぎ、必要とされる人材の定期的な供給を実現させたい」と高田さんは意気込む(図表3)。

さらに介護事業者から協力を得て奨学金制度を設立する計画もある(図表4)。介護事業者は賛助会

員として登録し、業種や業務内容、人事や教育体制などの詳細をエントリーシートに記入。介護支援鍼灸師講座受講生は、エントリーシートをもとに奨学金を受けた介護事業者と面接をする。マッチングが成功すれば、1つの事業者から奨学金を受け、講座終了後はその事業者に就職する仕組みだ。高田さんは「実務者研修を終えた鍼灸師の採用は、介護事業者にとって新たな雇用ルートの確保になるでしょう。鍼灸師を活用し、介護予防や自立支援につなげてほしいですね」と夢を語る。